

## 個人史からとらえた小浜島の音楽伝承

加藤富美子

本論は、音楽教育の基底的研究として民俗音楽の伝承研究を位置づけることをめざしたものである。民俗音楽の伝承を、地域の教育力のダイナミクスのもとでの個々人の音楽性の形成過程としてとらえ、これを音楽教育の基礎研究として位置づける意義を事例を通して示していくことを目的としている。

民俗音楽の伝承を、次の二つの側面から明らかにした。第1の側面は、現在に至る伝承において重要な役割を果たしてきた個人たちの伝承活動の実際を明らかにすることである。第2の側面は、これらの重要な個人たちの影響を受けて発達しつづける個人たちの音楽性形成ならびに人間形成の中に、その伝承活動の成果を見ることである。研究対象地は沖縄県八重山郡小浜島とした。その理由は、1) 豊かな民俗音楽文化を現在に伝承している地である、2) 社会の規模が小さく個人をとらえやすい、3) 1974年以來今日に至る長期間にわたる筆者の調査地との関わりから、伝承の過程およびその成果を縦断的にとらえることが可能となる、という3点である。

小浜島の民俗音楽により豊かな音楽性形成をはかっている若者たちを対象とし、彼らの個人史を記述することによって、1) 伝承活動を受容するための基本的資質・条件と個人差、2) 重要な個人たちの意図的な伝承活動の成果、3) 民俗音楽の伝承活動による音楽性の形成という3点から、重要な個人たちによる伝承活動の成果を把握した。

その結果、家庭の音楽環境からの影響、音楽と社会生活の関わり、期待される社会的役割やアイデンティティの形成との関わり、個々の音楽能力の差異がもたらす音楽活動への関わり方の差異、学校という公的な教育機関と地域社会との関わりなど、人々が音楽を身につけていく際に影響をもたらすであろう、さまざまな条件とその関係を見とることができた。また、小浜島の青年たちが個別の適時に応じて、小浜島の民俗音楽に回帰していく過程、小浜島の民俗音楽の伝承活動を通して音楽性や表現力の形成をはかっていく過程を見ることができた。